

## 日本セキュリティ監査協会がサプライチェーンの情報セキュリティ管理モデルを提案

特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会（以下、JASA）は、10月6日、東京で開催された「クラウド時代の情報セキュリティと監査の活用」と題するシンポジウムで、サプライチェーンの情報セキュリティ管理モデルの提案をしました。ここでいうサプライチェーンの管理とは、業務委託における機密情報管理に着目して、委託元／委託先／再委託先等の請負業務の委託の連鎖で交換される情報のセキュリティを管理することを意味しています。

IT 業界では技術的に専門特化した企業などが多く、業務が細分化されて委託される傾向があり、これらを管理することがセキュリティ上の課題となっています。

シンポジウムにおいては、以下の特長を持つサプライチェーンの情報セキュリティ管理モデルの提案が行われました。

1. 委託元、委託先、再委託など、サプライチェーンの参加者が最低限行うべき管理策の数を絞り込み、誰もが実施できるレベルで具体化を図る
2. 共通の様式と標準化された業務フローによる、委託元、委託先、再委託先、再再委託先等が情報セキュリティ管理の負担をあまり意識しないのでできる仕組みをつくる
3. 自己点検・内部監査・外部監査を組み合わせたチェックの仕組みにより、管理水準の統一化を図っていく

このモデルを用いて、業界としての情報セキュリティ管理の PDCA（Plan；計画→Do；実施→Check；点検→Act；処置）のサイクルを回し、業界全体の情報セキュリティ管理レベルの底上げを目指しています。

なお、現在、経済産業省の支援を受けて、本年8月より通信業界大手と IT 業界大手企業等が参加したワークショップが行われており、提案されたモデルを実施するための課題を整理し、今年末までに業界標準の案を取りまとめる予定です。

本項に関する問い合わせ先；

特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会 事務局長 永宮直史

TEL: 03-5640-7060